

2025年度第3四半期 決算報告書

プレスリリース

2025年10月28日、パリ

業績は2025年度の純利益目標（12.2十億ユーロ超）に沿って堅調に推移

		2025年度 第3四半期 (単位：百万ユーロ)	対2024年度 第3四半期 ¹ 増減率
多角的なビジネスモデルにより営業収益は増加 AXA IM*を除く事業部門：前年同期比+3.5% 為替レート変動による影響を除くと+4.9%	— 収益	12,569	+5.3%
● CIB部門（+4.5%）：為替レートの影響にもかかわらず、四半期業績は非常に良好（為替レートの変動による影響を除くと+7.7%） ● CPBS部門（+3.1%）：ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業は良好な業績を達成し、専門的金融事業では改善 ● IPS部門（AXA IM*を除くと+2.9%）：力強い有機的成長			
コスト管理および業務効率化 AXA IM*を除く事業部門：前年同期比+1.5%	— 営業費用	7,610	+5.5%
● AXA IM*を除く事業部門のジョーズ効果はプラス： +2.0ポイント			
営業総利益	— 営業総利益	4,959	+4.9%
リスク費用 ² は40ベースポイント未満	— リスク費用 ²	39 bps	
税引前利益 AXA IM*を除く事業部門：前年同期比+5.0%	— 税引前利益	4,284	+5.5%
純利益 ³ は2025年度目標（12.2十億ユーロ超）に沿った水準	— 純利益 ³	3,044	+6.1%
2025年9月30日現在の1株当たり有形純資産額		— 有形純資産額 ⁴	91.2ユーロ

財務構造は非常に良好：普通株式等Tier1比率⁵は、2025年9月30日現在12.5%

* 2025年7月1日付でAXA IMを連結。2024年度第3四半期と2025年度第3四半期の事業部門の業績を比較しやすくするため、修正再表示を実施。



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world

BNPパリバの取締役会が2025年10月27日に開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務める中、当グループの2025年度第3四半期の業績が検討されました。ジャン＝ローラン・ボナフェCEO（最高経営責任者）は取締役会の最後に、以下のように述べました。

「当グループは、第3四半期において3つの事業部門のすべてで好調な業績を達成し、普通株式等Tier1比率は12.5%、資本の有機的創出は30ベシスポイントと、非常に良好な財務構造を示しています。当グループの業績は、12.2十億ユーロ超という2025年度の純利益目標および2026年度の成長目標に沿った水準です。第3四半期において特筆すべき成果はAXA IMの統合であり、これにより、当グループは戦略的変革を推進し、資産運用分野におけるリーダーとなることができました。お客様に対する、すべてのチームの継続的な献身に謝意を表します。」

2025年9月30日現在のグループ業績

2025年度第3四半期の当グループの業績

営業収益

2025年度第3四半期において、グループ全体の銀行業務純益は、12,569百万ユーロとなり、2024年度第3四半期¹と比較して5.3%増でした。AXA IM⁶を除く事業部門の銀行業務純益は3.5%増で、為替レート変動による影響を除くと4.9%増でした。

ホールセールバンキング（CIB）部門の営業収益は、前年同期比4.5%増となり、当グループの「組成と販売」ビジネスモデルの強みを反映して、過去最高の四半期業績を達成しました。グローバル・バンキング事業の営業収益は減少（前年同期比-2.6%、リスク加重資産は前年同期比で11.5%減少）しましたが、関税発表、地政学的不確実性、法人顧客の様子見姿勢および対ユーロでのドル安の影響により、昨年よりも厳しい状況の中で、堅調に推移しました。グローバル・マーケット事業は、不利な為替レートの影響にもかかわらず、前年同期比+9.4%と大幅な伸びを達成しました。株式・プライムサービス事業は、3つのセグメント（デリバティブ業務、現物業務およびプライムサービス業務）のすべてに支えられ、前年同期比+17.9%と大幅な伸びを記録しました。FICC事業は、活発なレポ取引およびクレジット業務の良好な業績により、前年同期比+3.7%の増加を達成しました。証券管理事業は、取引が高水準であったことから、増加しました（+5.0%）。

コマーシャル&個人向けバンキングサービス（CPBS）部門の営業収益⁷は、コマーシャル&個人向けバンキング事業の好調な業績（前年同期比+5.6%）に支えられ、増加しました（前年同期比+3.1%）。ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業では、預金残高が減少し（前年同期比-0.7%）、融資残高がわずかに増加しました（前年同期比+0.6%）。営業収益は、ユーロ圏で増加し（前年同期比+3.5%⁷）、欧州・地中海沿岸諸国では大幅に増加しました（前年同期比+14.1%⁷）。

専門的金融事業では、アルバルとリーシング・ソリューションズの営業収益が減少しました（前年同期比-10.5%）。これは、アルバルにおける中古車価格のベース効果によるものです。アルバルでは、有機的営業収益の大幅な増加（前年同期比+9.3%）が示すように、非常に好調な業績を達成しました。リーシング・ソリューションズの営業収益は、前年同期比2.0%増でした。

当四半期は、組成時の利鞘の継続的な改善により、パーソナル・ファイナンスの営業収益の増加（前年同期比+5.0%）が顕著でした。ニューデジタル事業と個人投資家事業の営業収益は横ばい（前年同期比+0.2%⁷）でしたが、連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと大幅に増加しました（前年同期比+13.4%⁷）。



インベストメント&プロテクションサービス (IPS) 部門の営業収益は、AXA IMの連結ならびに保険事業およびウェルス・マネジメント事業における有機的成長により、**27.5%増加**しました。当四半期より、IPS部門はAXA IMの収益を連結しており、当四半期は**367**百万ユーロでした。保険事業の営業収益（前年同期比**+7.7%**）およびウェルス・マネジメント事業の営業収益（前年同期比**+10.4%**）は、好調な資金純流入により増加しました。アセット・マネジメント事業（リアル・エステートおよびIPSインベストメンツを除く）の営業収益も、資金流入および市場動向の影響により増加しました（前年同期比**+6.0%**）。全体では、アセット・マネジメント事業の営業収益は減少しました（前年同期比**-8.6%**）。これは、リアル・エステートが依然として低迷していること、および当四半期におけるIPSインベストメンツの再評価額が低下したことによるものです。

営業費用

当四半期の営業費用は、**7,610**百万ユーロ（前年同期比**+5.5%**）となりました。AXA IM⁶を除く営業費用は**1.5%**増で、為替レート変動による影響を除くと**2.8%**増でした。

これには、事業再編費用と事業適応費用（**89**百万ユーロ）およびIT強化費用（**65**百万ユーロ）の合計**154**百万ユーロの一時的影響が含まれています。

CIB部門の営業費用は、限界費用の増加により増加しました（前年同期比**+1.1%**）。ジョーズ効果は、事業部門レベルではプラス（**+3.4**ポイント）で、特に証券管理事業において高水準（**+6.5**ポイント）でした。

CPBS部門⁷の営業費用は**2.4%**増加し、ジョーズ効果は、ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業（**+2.6**ポイント）、パーソナル・ファイナンス（**+5.2**ポイント）、アルバルとリーシング・ソリューションズ（中古車営業収益を除くと**+0.8**ポイント）およびニューデジタル事業と個人投資家事業（**+3.7**ポイント）において極めて高水準でした。

IPS部門では、AXA IMを除く営業費用は減少しました（前年同期比**-0.5%**）が、引き続き成長を支えました。ジョーズ効果は、保険事業およびウェルス・マネジメント事業において極めて高水準でした。

全体では、事業部門（AXA IMを除く）のジョーズ効果は、**2.0**ポイントのプラスとなりました。

リスク費用

当四半期のグループ全体のリスク費用は、**905**百万ユーロ²（前年同期は**729**百万ユーロ）となり、顧客向け融資残高の**39**ベーススポイント相当で、**2024年度-2026年度**の目標に沿った水準でした。

当四半期において、不良債権（ステージ**3**）に対する引当金は**1,064**百万ユーロ（前年同期は**946**百万ユーロ）に抑制されました。当グループは、ステージ**1**および**2**に対する引当金の戻入**159**百万ユーロを計上しました。引当金残高は**18.4**十億ユーロで、うち**4.0**十億ユーロはステージ**1**および**2**に対する引当金でした。ステージ**3**のカバレッジ比率は**66.6%**で、不良債権の割合は**1.7%**でした。

金融商品に係るリスクに関するその他の純損失は、当四半期において**14**百万ユーロ（前年同期は**42**百万ユーロ）となりました。

営業利益、税引前利益および当グループの純利益

営業総利益は**4,959**百万ユーロ（前年同期比**+4.9%**）となり、営業利益は**4,040**百万ユーロで、前年同期と比較して**2.1%**増加しました。

持分法適用会社投資損益を含む税引前利益は、**4,284**百万ユーロ（前年同期比**+5.5%**）となりました。



当グループの純利益は、当四半期において**3,044**百万ユーロとなり、前年同期（**2,868**百万ユーロ）と比較して**6.1%**増加しました。当四半期の法人税率は平均で**26.5%**でした。

2025年度第3四半期累計期間（1-9月）の当グループの業績

2025年度第3四半期累計期間（1-9月）の営業収益は**38,110**百万ユーロとなり、前年同累計期間（1-9月）と比較して**3.9%**増加しました。

CIB部門の営業収益（**14,423**百万ユーロ）は、グローバル・マーケット事業（前年同期比**+11.0%**）、グローバル・バンキング事業（前年同期比**+0.7%**）および証券管理事業（前年同期比**+8.6%**）の増収により、前年同期比**7.1%**増となりました。

CPBS部門⁷の営業収益は、**1.6%**増加し、**19,780**百万ユーロとなりました。コマーシャル&個人向けバンキング事業では増加しました（CPBF：前年同期比**+2.7%**、CPBB：前年同期比**+2.0%**、CPBL：前年同期比**+6.8%**）。欧州・地中海沿岸諸国では大幅に増加しました（前年同期比**+18.6%**）。専門的金融事業では、アルバルとリーシング・ソリューションズ（前年同期比**-14.6%**）におけるアルバルの中古車価格の正常化により、業績が悪化しました（前年同期比**-4.0%**）。

IPS部門の営業収益は**4,927**百万ユーロ（前年同期比**+13.0%**）となりました。これは、AXA IMを連結したこと、ならびに保険事業（前年同期比**+6.7%**）、ウェルス・マネジメント事業（前年同期比**+9.1%**）およびアセット・マネジメント事業（リアル・エステートおよびIPSインベストメンツを除く）（前年同期比**+2.1%**）において業績が好調であったことによるものです。AXA IMの営業収益（**367**百万ユーロ）は、初めてIPS部門に連結されました。

グループ全体の営業費用は**23,099**百万ユーロとなり、前年同期（**22,326**百万ユーロ）と比較して**3.5%**増加しました。これには、事業再編費用と事業適応費用（**173**百万ユーロ）およびIT強化費用（**236**百万ユーロ）の合計**409**百万ユーロの一時的影響が含まれています。事業部門レベルでは、営業費用は、CIB部門では**4.3%**増となり、CPBS部門⁷では**1.4%**増（コマーシャル&個人向けバンキング事業は**+1.6%**、専門的金融事業は**+1.0%**）となりました。IPS部門では、当四半期においてAXA IMを連結したことにより、**10.4%**増加しました。

以上から、グループ全体のジョーズ効果はプラス（**+0.4**ポイント）となり、コスト／インカム率は**60.6%**となりました。

グループ全体の営業総利益は、2025年度第3四半期累計期間（1-9月）において**15,011**百万ユーロとなり、前年同期（**14,368**百万ユーロ）と比較して**4.5%**増加しました。

グループ全体のリスク費用²は**2,555**百万ユーロ（前年同期は**2,121**百万ユーロ）でした。2025年度第3四半期累計期間（1-9月）において、金融商品に係るリスクに関するその他の純損失は**129**百万ユーロ、グループ全体の営業外項目は**754**百万ユーロとなりました。

グループ全体の税引前利益は**13,081**百万ユーロとなり、前年同期（**12,845**百万ユーロ）と比較して**1.8%**増加しました。2025年度第3四半期累計期間（1-9月）の平均法人税率**27.1%**（前年同期は**25.8%**）に基づくと、当グループの純利益は**9,253**百万ユーロ（前年同期は**9,366**百万ユーロ）となりました。

2025年9月30日現在、再評価前の有形自己資本利益率（ROTE）は**11.4%**でした。これは、多角的かつ統合的なビジネスモデルを背景とする当グループの堅調な業績を反映しています。



AXA IMの統合

当四半期において特筆すべきは、AXA IMの業績が当グループの業績に初めて反映されたことです。

この買収により、当グループは、（i）1,600十億ユーロを超える運用資産残高を有する、欧州第3位の資産運用会社、（ii）約850十億ユーロの長期資産を有する、長期貯蓄運用における欧州のリーダー、および（iii）約300十億ユーロの運用資産残高を有する、オルタナティブ・アセットにおける欧州のリーダーとしての地位を確立し、資産運用分野におけるリーダーとなります。

また、これにより、当グループは、全資産クラスにわたり包括的かつ大規模なサービスを提供する、欧州唯一の資産運用会社としての地位を確立しており、以下のような独自の成長基盤を有しています。

- 資産クラス別および販売ネットワーク別にバランスのとれた、1,600十億ユーロを超える運用資産残高
- AXAおよびBNP Paribas Cardifとの戦略的パートナーシップによる、保険会社向け資産運用における高い専門性
- 当グループ独自の統合的なビジネスモデル

財務面に関しては、税引前の営業収益と費用のシナジーは、2029年までに550百万ユーロに達すると見込まれています。これに基づき、当グループは、当初の投下資本利益率目標を2028年について18%、2029年について22%へと引き上げました（当初の目標は2028年について14%、2029年について20%でした）。費用のシナジーにより、大規模な産業プラットフォームを展開することが可能になります。費用のシナジーは、税引前で400百万ユーロと見積もられ、うち3分の2は2027年までに実現し、統合後の費用ベースの約18%を占める見込みです。営業収益のシナジーは、当グループの統合的なビジネスモデルを活用し、新たなプラットフォームの成長加速を支えます。営業収益のシナジーは、税引前で150百万ユーロと見積もられ、うち50%は2027年までに実現する見込みです。統合費用は690百万ユーロ、パートナーシップに係る年間償却額は100百万ユーロと見積もられています。普通株式等Tier1比率への影響は35ベースポイントです。

全体として、AXA IMの統合による当グループのROTEへの寄与は、2028年までに50ベースポイントを超える見込みです。

AXA IMは、（i）能力および専門知識の内製化、（ii）保険会社および年金基金（AXAおよびBNP Paribas Cardif以外）との新たなパートナーシップの構築、（iii）相互販売の加速、（iv）当グループの「組成と販売」ビジネスモデルの拡大、ならびに（v）オルタナティブ・アセットの販売展開を基盤として当グループの長期的な成長目標の推進役を担っています。



2025年9月30日現在の財務構造

普通株式等Tier1比率⁵は、2025年9月30日現在12.5%で、監督上の検証・評価プロセス（SREP）の要件（10.51%）を大きく上回り、2025年6月30日現在と比較して安定しています。

当四半期は、（i）当四半期のリスク加重資産の変動控除後の資本の有機的創出（+30ベースポイント）、（ii）配当性向60%に基づく当四半期の利益分配（-20ベースポイント）、（iii）AXA IM（-35ベースポイント）ならびに（iv）ビジネスモデルの更新およびその他（+25ベースポイント）の複合的影響を反映していました。

トレーディング勘定の抜本的見直し（FRTB）実施後の普通株式等Tier1比率は、2027年までに12.5%となる見込みです。

レバレッジ比率⁸は、2025年9月30日現在、4.3%でした。

2025年9月30日現在、流動性カバレッジ比率⁹（期末）は138%、適格流動資産（HQLA）は380十億ユーロ、即時利用可能な余剰資金¹⁰は481十億ユーロでした。

2024年度-2026年度の目標および2028年度の展望

2025年度のこれまでの好調な勢いに基づき、当グループは、2026年度の目標を確認しました。この勢いは、株主還元の上につながります。

- 営業収益：2024年度から2026年度までの年平均成長率5%超
- ジョーズ効果：平均で約+1.5ポイント／年
- リスク費用：2025年度および2026年度において40ベースポイント未満
- 純利益：2024年度から2026年度までの年平均成長率7%超
- 1株当たり純利益：2024年度から2026年度までの年平均成長率8%超
- 2025年度のROTE：11.5%、2026年度のROTE：12%、2028年度のROTE：13%

各プラットフォームにおいて、これまでの投資により、成長基盤は以下のとおり整っています。

CIB部門は、高付加価値のプラットフォームです。そのRONEは、2016年度以降、継続的に上昇しています（2016年度は13.3%、2024年度は23.9%）。

CPBS部門では、ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業において、金利シナリオに支えられ、回復の勢いが徐々に強まっています。CPBS部門はまた、CPBFの新たな戦略計画およびパーソナル・ファイナンスの計画の2028年度までの延長の恩恵を受け、これにより、2028年度までにグループ全体のROTEに+1%（うち、2026年度までに+0.5%）の影響が見込まれています。専門的金融事業では、アルバルが力強い有機的成長を維持しており、中古車販売における大幅なベース効果は終了しつつあります。

IPS部門は、引き続き、手数料収入を創出する事業と資本効率が高い事業を備えた統合プラットフォームを展開しています。さらに、AXA IM、ウェルス・マネジメント事業およびBNP Paribas Cardifにおける外部成長の実現により、加速する見込みです。AXA IMの業績動向は、2028年度までにグループ全体のROTEに0.5%の影響を与える見込みです。



持続可能な開発

当四半期において、当グループは、引き続き、顧客のエネルギー転換、脱炭素化および生物多様性プロジェクトを支援しました。

具体例として、BNPパリバは、Greenergy向けの270百万ドルのグリーン・ローンにおいて、グリーン・ローン・コーディネーターを務め、世界最大級の再生可能エネルギー・蓄電プロジェクトの1つであるElenaプロジェクト（総額1.5十億ドル）に係る資金調達を支援しました。当グループはまた、鉄道燃料用水素製造に係る融資を目的として、Ferrovie Nord Milano向けの1十億ユーロのサステナビリティ・リンク・ローンおよびグリーン・ローンにおいて、グローバル・サステナビリティ・コーディネーターを務めました。

BNPパリバの顧客への継続的な支援は、サステナブルファイナンスのランキングにおける年初来の上位獲得に表れています。当グループは、グローバル・グリーン、ソーシャルおよびサステナビリティ・ボンドのランキング（取引高ベース）で第1位、また、EMEA地域におけるグリーン、ソーシャルおよびサステナビリティ・ローンのランキング（取引高ベース）で第2位となっています¹¹。



ホールセールバンキング（CIB）部門

2025年度第3四半期のCIB部門の業績

「組成と販売」ビジネスモデルの強みが反映された記録的な四半期となりました。

銀行業務純益（4,458百万ユーロ）は、前年同期比4.5%増でしたが、これは、グローバル・バンキング事業にとっては昨年よりも厳しい環境であったにもかかわらず、グローバル・マーケット事業および証券管理事業において良好な業績が達成されたことによるものでした。

営業費用は、限界費用の増加により2,599百万ユーロとなり、前年同期と比較して1.1%増加しました。ジョーズ効果はプラス（+3.4ポイント）となり、特に証券管理事業において顕著（+6.5ポイント）でした。

営業総利益は、1,858百万ユーロとなり、前年同期比9.5%増でした。

リスク費用は、195百万ユーロとなりました。

CIB部門の税引前利益は、1,666百万ユーロとなり、0.4%減となりました。

CIB部門ーグローバル・バンキング事業

グローバル・バンキング事業は堅調な業績を達成し、EMEA地域における主導的地位を確固たるものとししました。

営業収益（1,454百万ユーロ）は、関税発表、地政学的不確実性、法人顧客の様子見姿勢および対ユーロでのドル安の影響により、昨年よりも厳しい環境の中、前年同期と比較して2.6%減少しました。為替レート変動による影響を除けば、営業収益は横ばいでした。手数料および融資収益の増加が、キャッシュマネジメントにおける金利低下の影響を相殺しました。キャピタルマーケット事業は順調でした。当四半期は、特に証券化業務の著しい進展が特徴的で、世界ランキング第5位、市場シェアは6.8%でした。トランザクションバンキング業務では、事業の勢いが持続しました。アドバイザー業務は、高水準であった前年同期と比較して安定していました。

融資残高は減少し（前年同期比-7.2%¹²）、預金残高は増加しました（前年同期比+1.7%¹²）。

グローバル・バンキング事業は、当第3四半期累計期間（1-9月）においてEMEA地域での主導的地位を確固たるものとし、特に（i）すべての負債部門（DCM、投資適格融資、ユーロ建て債券および証券化商品）で第1位、（ii）ハイイールド債で第2位、ならびに（iii）EMEA地域におけるECMで第3位として、ランキングで上位に位置付けられました¹³。



CIB部門ーグローバル・マーケット事業

グローバル・マーケット事業は、株式・プライムサービス事業の好調な業績により、優れた四半期業績を達成しました。

グローバル・マーケット事業の営業収益は、2,228百万ユーロとなり、為替レートの不利な影響にもかかわらず、前年同期比9.4%増でした。営業費用は、事業投資および業績に伴い抑制されました（+3.1%）。当四半期において、ジョーズ効果は極めて高水準（+6.3ポイント）でした。

株式・プライムサービス事業の営業収益は、971百万ユーロとなり、前年同期比17.9%増でした。当四半期には、すべての事業部門および地域において好調な業績が達成されました。当四半期は、すべての地域におけるデリバティブ業務の活発な取引、プライムブローカー業務の非常に好調な伸びおよび特に米国における現物株式業務の取引の増加に支えられました。

FICC事業の営業収益は、1,257百万ユーロとなり、特に米州におけるレポ取引およびクレジット取引の好調な業績に支えられ、前年同期比3.7%増でした。

当四半期において、リスク費用は、特殊な信用状況に関連して、グローバル・マーケット事業において増加しました。

市場リスクの尺度である平均バリュエーション・アット・リスク（VaR。信頼区間99%、保有期間1日）は、34百万ユーロとなりました。これは、前四半期と比較して低水準で安定推移しました。

CIB部門ー証券管理事業

当四半期は、金利低下およびドル安という環境下で堅調な業績を達成しました。

証券管理事業の営業収益は、大幅増収を達成し、775百万ユーロとなりました（前年同期比+5.0%）。これは、好調な事業の勢いおよび高水準の取引高によるものでしたが、金利低下および対ユーロでのドル安という環境下での正味利息収益の減少により一部相殺されました。

営業費用は、為替レートおよびコスト節減策を反映して、543百万ユーロに減少しました。コスト／インカム率は、引き続き改善しました。

当四半期中、各セグメントおよび地域において新規マンドート（例：UniCredit GroupおよびAllianz UK）が締結されました。最先端技術分野では、証券管理事業は、Allfunds Blockchainと共同で、スペインのAzvalor向けの、リアルタイム決済・引渡し機能を備えた初のトークン化ファンドの設立において、保管銀行およびファンド管理会社として参画しました。

2025年度第3四半期累計期間（1-9月）のCIB部門の業績

当第3四半期累計期間（1-9月）において、CIB部門の営業収益は、前年同期比7.1%増の14,423百万ユーロとなり、営業費用は、前年同期比4.3%増の8,133百万ユーロとなりました。

CIB部門の営業総利益は、前年同期比11.1%増の6,290百万ユーロとなり、リスク費用は、371百万ユーロとなりました。

以上から、CIB部門の税引前利益は、前年同期比1.6%増の5,934百万ユーロとなり、当四半期末現在、リスク加重資産は7.3%の減少を示しました。



コマーシャル&個人向けバンキングサービス（CPBS）部門

2025年度第3四半期のCPBS部門の業績

当四半期は全体的に良好な業績で、税引前利益が増加したことが特徴的でした。

銀行業務純益⁷は、6,621百万ユーロとなり、前年同期比3.1%増となりました。

コマーシャル&個人向けバンキング事業の営業収益⁷は、4,296百万ユーロとなり増加し（前年同期比+5.6%）、正味利息収益はさらに増加しました（前年同期比+6.6%）。コマーシャル&個人向けバンキング事業は、ネットワーク全体において手数料で良好な業績を達成しました（前年同期比+3.7%）。プライベートバンキングの運用資産残高は増加し（前年同期比+3.5%）、Hello bank!は引き続き拡大し、顧客数は3.8百万人に達しました（前年同期比+4.0%）。CPBS部門は持続的なペースでデジタル利用を引き続き発展させました（1ヶ月当たり17.3百万の有効顧客¹⁴、前年同期比10.4%増）。

専門的金融事業の営業収益は、2,326百万ユーロとなりました（前年同期比-1.2%）。アルバルの有機的営業収益（金融マージンおよびサービスマージン）は急増しました（前年同期比+9.3%）。当四半期における中古車価格に関連した大幅なベース効果は、終了しつつあります。リーシング・ソリューションズの営業収益は増加しました。パーソナル・ファイナンスの営業収益は、組成時の利鞘の継続的な改善により、融資残高よりも速いスピードで増加しました（それぞれ、前年同期比+5.0%および+2.7%）。ニューデジタル事業と個人投資家事業の営業収益は、連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと前年同期比13.3%増となり、1十億ユーロ超という2025年の営業収益の目標の達成が確認されました。

営業費用⁷は増加しました（前年同期比+2.4%）。ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業では、ジョーズ効果は極めて高水準（+2.6ポイント）でした。専門的金融事業のジョーズ効果は、パーソナル・ファイナンス（+5.2ポイント）、アルバルとリーシング・ソリューションズ（中古車営業収益を除くと+0.8ポイント）およびニューデジタル事業と個人投資家事業（+3.7ポイント）においてプラスでした。

営業総利益⁷は、2,761百万ユーロとなり（前年同期比+4.1%）、リスク費用その他⁷は718百万ユーロ（前年同期は737百万ユーロ）で、前年同期比2.6%減となりました。

以上から、リスク加重資産はわずかに減少し、CPBS部門の税引前利益⁷は、2,176百万ユーロに達しました（前年同期比+8.1%）。



CPBS部門－フランスのコマーシャル&個人向けバンキング（CPBF）

当四半期において、**CPBFは税引前利益の力強い増加を達成し、Deep Diveの目標達成（2025年6月26日）を確認しました。**

預金残高は、前年同期比**2.3%**減少しましたが、前四半期比では横ばいでした。当座預金は増加（前年同期比**+0.9%**）し、定期預金の著しい減少（前年同期比**-20.5%**）により、預金構成はわずかに改善しました。融資残高は、前年同期比**0.6%**減でした（国家保証ローンを除くと**+0.7%**）。住宅ローンは横ばいでした。オフバランス貯蓄商品は、**2025年9月30日現在の生命保険の資金純流入が2.6十億ユーロとなり、2024年度を大幅に上回りました（2024年9月30日現在と比較して+29.4%）**。投資マンドートは当四半期において非常に力強く成長しました。法人顧客からの資金純流入の増加により、**2025年9月30日現在、プライベートバンキングの運用資産残高は、142十億ユーロとなりました（前年同期比+1.5%）**。

銀行業務純益¹⁵は、前年同期比**3.9%**増の**1,704**百万ユーロとなりました。正味利息収益¹⁵については、無利息の当座預金における利鞘が改善したものの、住宅ローンにおける利鞘の低下および法人顧客セグメントにおける軟調により一部相殺されました。手数料¹⁵は、個人顧客、起業家およびプライベートバンキングにおいて堅調で、大幅に増加しました。

営業費用¹⁵は、抑制されて**1,143**百万ユーロとなり（前年同期比**+0.8%**）、インフレ率を下回る伸びでした。ジョーズ効果は極めて高水準（**+3.1**ポイント）でした。

営業総利益¹⁵は、**561**百万ユーロとなりました（**2024年度第2四半期比+10.9%**）。

リスク費用¹⁵は、**85**百万ユーロに減少し（前年同期は**122**百万ユーロ）、顧客向け融資残高の**15**ペーシスポイント相当でした。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBFの税引前利益¹⁶は、**426**百万ユーロ増の大幅な増益となりました（前年同期比**+26.3%**）。

CPBS部門－BNLバンカ・コメルシアーレ（BNL bc）

当四半期における**BNL bcは、営業利益の継続的な改善が特徴的でした。**

預金残高は、特にコーポレートバンキングおよびプライベートバンキングにおいて増加しましたが（前年同期比**+0.3%**）、個人顧客の減少により一部相殺されました。当座預金は増加し（前年同期比**+2.7%**）、定期預金は減少した（前年同期比**-8.3%**）ことで、預金構成は改善されました。融資残高は増加しました（前年同期比**+0.8%**）。当四半期は、融資審査の選択的アプローチに基づいた住宅ローン減少の影響により一部相殺されましたが、法人向け貸出の回復力が顕著でした。オフバランス顧客資産¹⁷は、プライベートバンキングの顧客（すべての商品）ならびにミューチュアル・ファンドおよび証券ポートフォリオに支えられ、**2024年9月30日現在と比較して5.6%増**でした。プライベートバンキングの資金純流入は、当四半期において**0.8十億ユーロ**となりました（**2025年度第3四半期累計期間（1-9月）で+2.8十億ユーロ**）。

銀行業務純益¹⁵は、**686**百万ユーロとなり、前年同期比**0.3%**増でした。正味利息収益は、金利環境ならびに法人預金および住宅ローンにおける激しい競争により、わずかに減少しました。金融手数料¹⁵は大幅に増加しました。

営業費用¹⁵は、**411**百万ユーロとなり、構造的なコスト節減策により減少しました（前年同期比**-1.6%**）。ジョーズ効果はプラス（**+1.9**ポイント）でした。

営業総利益¹⁵は、**274**百万ユーロとなりました（前年同期比**+3.2%**）。



リスク費用¹⁵は、57百万ユーロと減少し、顧客向け融資残高の31ベースポイント相当となり、リスクプロファイルの継続的な改善を確認しました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のBNL bcの税引前利益¹⁶は、309百万ユーロとなり、営業利益の増加に支えられて大幅に増加しました（株式投資の再評価の影響を除いた場合、前年同期比+45.0%）。

CPBS部門ーベルギーのコマーシャル&個人向けバンキング（CPBB）

CPBBにおいて、正味利息収益は回復を続けました。ジョーズ効果は極めて高水準でした。当四半期は、積極的なバランスシートの管理も特徴的でした。

融資残高は、住宅ローンおよび法人向け貸出の増加があり、前年同期比2.2%増加しました。預金残高は前年同期比0.4%増加しましたが、これは定期預金から貯蓄口座、当座預金およびオフバランス貯蓄商品へのシフトによる良好な構成効果によるものです。オフバランス貯蓄商品は、ミューチュアル・ファンドおよび仕組債の増加により、2024年9月30日現在と比較して6.3%増加しました。2025年9月30日現在、プライベートバンキングの運用資産残高は、85.9十億ユーロとなりました（前年同期比+3.9%）。CPBBは、証券化および信用保険プログラムを継続する一方で、バランスシートを積極的に管理しており、当第3四半期累計期間（1-9月）のリスク加重資産は合計で2.3十億ユーロでした。

銀行業務純益¹⁵は、986百万ユーロとなり、前年同期比6.0%増でした。正味利息収益は、住宅ローンマージンへの圧力により一部相殺されましたが、良好な構成比率による預貸利鞘の力強い増加に支えられて増加しました。金融手数料、顧客貸出および保険商品が寄与して、手数料は増加しました。

営業費用¹⁵は、588百万ユーロとなり、抑制された水準での増加となりましたが、これはBpost bankとのシナジーによる従業員数の削減が寄与していました。ジョーズ効果はプラスで、3.6ポイントでした。

営業総利益¹⁵は、398百万ユーロとなりました。

リスク費用¹⁵は低水準で、顧客向け融資残高の6ベースポイント相当となりました。なお、前年同期には引当金純戻入がありました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBBの税引前利益¹⁶は、351百万ユーロとなり、前年同期の資産売却に伴うキャピタルゲインに関連するマイナスのベース効果を除くと、前年同期比0.3%増加しました。



CPBS部門—ルクセンブルクの商業&個人向けバンキング（CPBL）

当四半期中、**CPBLは、預金残高の増加により、営業収益の力強い伸びを達成しました。**

銀行業務純益¹⁵は、**174百万ユーロ**となりました（前年同期比**+11.0%**）。正味利息収益¹⁵は、すべてのセグメントでの預貸利鞘水準の維持および取引高の増加により、大幅に増加しました。当四半期の手数料は、一時的な影響により減少しました。

営業費用¹⁵は、インフレおよび特定のプロジェクトにより**6.7%**増加し、**79百万ユーロ**となりました。ジョーズ効果はプラス（**+4.2ポイント**）でした。

営業総利益¹⁵は、**95百万ユーロ**に増加しました（前年同期比**+14.8%**）。リスク費用は、顧客向け融資残高の**28**ベースポイント相当となりました。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の**3分の1**をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のCPBLの税引前利益¹⁶は、**94百万ユーロ**となり、大幅に増加しました（前年同期比**+19.3%**）。

CPBS部門—欧州・地中海沿岸諸国

当四半期も非常に活発な事業活動が続きました。

預金残高（前年同期比**+5.3%**）は、特にトルコおよびポーランドにおいて増加しました。融資残高（前年同期比**+6.8%**）は、特にトルコおよびポーランドにおいて増加し、個人顧客向けのローンの組成量が堅調な水準に回復したことが顕著でした。

銀行業務純益¹⁵は、**938百万ユーロ**となり、前年同期比**13.1%**増でした（トルコのハイパーインフレに関連する会計基準の影響を除くと前年同期比**10.5%**増）。かかる力強い伸びは、トルコにおける環境の段階的な正常化を背景としたマージンの改善ならびにトルコおよびポーランドにおける手数料の好調な勢いに支えられて実現しました。

営業費用¹⁵は、**538百万ユーロ**となり、前年同期比**12.2%**増でした（トルコのハイパーインフレに関連する会計基準の影響を除くと前年同期比**10.1%**増）。かかる増加は高インフレが原因でした。ジョーズ効果はプラス（**+0.8ポイント**）でした。

営業総利益¹⁵は、**400百万ユーロ**となりました。

リスク費用¹⁵は、顧客向け融資残高の**77**ベースポイント相当となり、前年同期の低水準から正常化しています。現在の金利およびインフレの環境下において、トルコにおける個人顧客のリスク費用は、より高いものでした。金融商品に係るリスクに関するその他の純損失は、ポーランドにおけるその他の引当金の影響約**15**百万ユーロを反映しています。

以上から、プライベートバンキング業務の純利益の**3分の1**をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後の欧州・地中海沿岸諸国の税引前利益¹⁶は、**353百万ユーロ**となり、トルコのハイパーインフレに関連する会計基準の影響を除くと、前年同期比**+22.6%**でした。



CPBS部門－専門的金融事業－パーソナル・ファイナンス

当四半期は、取引高の増加および組成時の利鞘の増加が顕著でした。ジョーズ効果は極めて高水準で、税引前利益は大幅に増加しました。

融資残高は、組成時の利鞘が改善し、増加しました（前年同期比+2.7%）。モビリティはさらに発展し（組成量は前年同期比5%増）、当年度初頭からパートナーシップを締結しました。フランスにおいて展開されたAppleとのリテールのパートナーシップが非常に好影響をもたらしたため、BtoC消費者信用は非常に好調な伸びを達成しました（組成量は前年同期比9%増）。パーソナル・ファイナンスは、バランスシートを積極的に管理しています。これにはSRTによる証券化取引2件（合計1.6十億ユーロ）を含んでいます。かかる取引により、当四半期のリスク加重資産は0.8十億ユーロ減少しました。

以上から、銀行業務純益は、取引高の増加および組成時の利鞘の継続的な改善による複合的影響で、前年同期比5.0%増の1,290百万ユーロとなりました。

営業費用は、業務効率化策の影響により621百万ユーロとなりました。ジョーズ効果は極めて高水準（+5.2ポイント）でした。

営業総利益は、10.3%増加し、669百万ユーロとなりました。

リスク費用は、前年同期比1.0%増の374百万ユーロとなりましたが、かかる微増はリスクプロファイルの継続的な構造的改善を損なうものではありません。当四半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の138ベースポイント相当でした。

以上から、税引前利益は、299百万ユーロとなり、前年同期比22.2%増でした。

CPBS部門－専門的金融事業－アルバルとリーシング・ソリューションズ

当四半期中、アルバルでは、（i）営業収益の力強い有機的成長と（ii）当四半期中における中古車価格に関連する最後の重要なベース効果が特徴的でした。当四半期中、リーシング・ソリューションズの営業収益は増加しました。

アルバルでは、ファイナンスフリートの持続的な増加（前年同期比+5.1%¹⁸）およびファイナンスリース残高の増加（前年同期比+9.4%）から見られるように、安定した事業活動を維持しました。個人顧客向けの長期リース契約は、新たなパートナーシップ締結の成功により堅調な伸びを示しました（前年同期比+11.1%、フリートの契約台数は約12%）。

リーシング・ソリューションズのファイナンスリース残高は微減し（前年同期比-0.9%）、利鞘は改善しました。当四半期は、テクノロジー部門の好調な伸び（前年同期比+17.5%）およびEPSONとの新たなパートナーシップの締結が特徴的でした。

アルバルとリーシング・ソリューションズの銀行業務純益は771百万ユーロとなり、10.5%減少しました。これは、アルバルの中古車営業収益のベース効果が継続したことによるもので、この効果は減少しています（中古車営業収益の貢献度：2024年度第1四半期は263百万ユーロ、2024年度第2四半期は265百万ユーロ、2024年度第3四半期は147百万ユーロ、2024年度第4四半期は52百万ユーロ、2025年度第1四半期は28百万ユーロ、2025年度第2四半期は13百万ユーロおよび当四半期は9百万ユーロ）。当四半期は、中古車価格に関連する最後の重要なベース効果の影響を受けています。しかしながら、これは、アルバルにおける営業収益（金融マージンおよびサービスマージン）の力強い有機的成長（+9.3%）と、フリートの契約台数の拡大により、一部相殺されました。

営業費用は、インフレおよび事業の発展により、5.9%増の403百万ユーロとなりました。中古車営業収益の影響を除くと、ジョーズ効果はプラス（+0.8ポイント）でした。アルバルとリーシング・ソリューションズの税引前利益は、291百万ユーロとなりました（前年同期比-34.5%）。



CPBS部門－専門的金融事業－ニューデジタル事業と個人投資家事業

ニューデジタル事業と個人投資家事業は、**2025年度に営業収益1十億ユーロ超を達成する目標を確認**しています。

Nickelは、フランス国内外における加入者数の増加（前年同期比**+14.6%**）により、預金残高の堅調な増加を達成しました（前年同期比**+12.3%**）。

後払決済（buy now, pay later）サービスにおけるフランスの主要企業の1社として、Floaでは、国際的にFloa Payの導入が急速に増加し（前年同期比**+66%**）、営業収益合計は増加しました。

最後に、ドイツにおいてデジタル・バンク・サービスおよび銀行業務を提供する個人投資家事業は、取引高の増加により好調な事業活動を達成しました（前年同期比**+9.8%**）。預金残高および顧客獲得は、競争の激しい環境下でも良好な水準を維持しています。

以上から、連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除く銀行業務純益¹⁵は、顧客数の増加および好調な事業活動により、前年同期比**13.3%増の269百万ユーロ**と大幅に増加しました。

営業費用¹⁵は、事業の発展により、**174百万ユーロ**となりました（連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと前年同期比**+8.8%**）。ジョーズ効果は極めて高水準（連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと**+4.5ポイント**）でした。

営業総利益¹⁵は**95百万ユーロ**となり、リスク費用¹⁵は**30百万ユーロ**（前年同期は**27百万ユーロ**）となりました。

以上から、ドイツ国内プライベートバンキング業務の純利益の3分の1をウェルス・マネジメント事業（IPS部門）へ配分した後のニューデジタル事業と個人投資家事業の税引前利益¹⁶は、**62百万ユーロ**（連結範囲の変更および為替レートの変動による影響を除くと**+27.9%**）となりました。

2025年度第3四半期累計期間（1-9月）のCPBS部門の業績

当第3四半期累計期間（1-9月）において、**営業収益⁷は19,780百万ユーロ**となり、前年同期と比較して**1.6%増加**しました。

営業費用⁷は、12,084百万ユーロとなり、前年同期比**1.4%増**でした。

営業総利益⁷は、7,696百万ユーロとなり、前年同期比**1.8%増**でした。

リスク費用⁷その他は、2,274百万ユーロとなり、前年同期比**2.3%減**でした（前年同期は**2,328百万ユーロ**）。

税引前利益¹⁶は、5,655百万ユーロとなり、前年同期比**5.5%増**でした。

インベストメント&プロテクションサービス (IPS) 部門

2025年度第3四半期のIPS部門の業績

当四半期は、**AXA IM**の連結および堅調な有機的事業水準が、収益成長を後押ししました。

2025年9月30日現在、**運用資産残高¹⁹**の総額は過去最高水準の2,392十億ユーロ（2024年12月31日現在と比較して+74%、**AXA IM**を除くと2024年12月31日と比較して+10.4%）となりました。運用資産の増加は、当四半期において、（i）2025年7月1日付での**AXA IM**の連結（+867.5十億ユーロ）、（ii）堅調な資金純流入（+60.5十億ユーロ）、（iii）市場動向による効果（+49.3十億ユーロ）、（iv）運用資産残高に対する為替レートの悪影響（-37.0十億ユーロ）および（v）その他の影響（**BNPパリバ・アセット・マネジメント**と**BNP Paribas Cardif**とのパートナーシップ拡大による一般資金の運用（+74.4十億ユーロ）を含む）の複合によるものでした。2025年9月30日現在の運用資産の内訳は、アセット・マネジメント事業およびリアル・エステート²⁰が739十億ユーロ、ウェルス・マネジメント事業が484十億ユーロ、保険事業が297十億ユーロならびに**AXA IM**が872十億ユーロでした。

保険事業では、貯蓄型保険業務における資金純流入が堅調に増加し、その大部分がユニットリンク型契約に流入しました。当四半期は、イタリアの**BCC Banca ICCREA**とのパートナーシップが力強い勢いを示したことが特徴的です。

アセット・マネジメント事業は、当四半期に12.1十億ユーロの非常に堅調な資金純流入を達成しました。手数料収入は、市場動向による効果も寄与し増加しました。**BNPパリバ・アセット・マネジメント**と**BNP Paribas Cardif**による一般ファンドの運用におけるパートナーシップが拡大されました。リアル・エステートは、統合資産運用プラットフォームへの**BNP Paribas Real Estate Investment Management (BNP Paribas REIM)**事業の統合に伴い、事業活動および組織体制を調整しました。**IPS**インベストメンツは、当四半期の再評価額の減少によるベース効果の影響を受けました。

ウェルス・マネジメント事業は、特に、国際的におよびコマーシャル&個人向けバンキング事業において、当四半期に合計4.2十億ユーロの堅調な資金純流入を記録しました。また、当四半期は、2025年10月6日付でドイツにおける**HSBC Wealth Management**の買収が完了したことが特徴的でした。

最後に、2025年7月1日より連結された**AXA IM**は、オルタナティブ・ファンドの立ち上げにおいてさらなる勢いをもたらしました。

全体では、**営業収益**は保険事業（+7.7%）およびウェルス・マネジメント事業（+10.4%）に支えられ、1,899百万ユーロ（前年同期比+27.5%）となり、**AXA IM**を除くと前年同期比+2.9%でした。これには、当四半期の**AXA IM**による営業収益の367百万ユーロが含まれます。

営業費用は、1,138百万ユーロ（前年同期比+29.2%）となりましたが、**AXA IM**を除くと0.5%減の876百万ユーロとなりました。

営業総利益は、761百万ユーロ（前年同期比+25.1%）となりました。

税引前利益は、816百万ユーロとなり、前年同期比+26.2%と大幅に増加しました。



IPS部門ー保険事業

当四半期は、総資金流入および税引前利益が大幅に増加しました。

貯蓄型保険業務に支えられ、すべての地域において、資金純流入は前年同期と比較して大幅に増加しました。特にBCC Banca Iccreaとのパートナーシップによりイタリアにおいて回復が見られました。フランス国内では、資金流入に占めるユニットリンク型契約の割合が大幅に増加しました。保障保険業務では、期ずれ効果により総資金純流入は減少しましたが、返済保証保険（CPI）では安定した事業活動が継続しました。

保障保険業務では、中古車販売店および購入者向けに保険およびサービス（保証延長およびメンテナンス）を提供するべく、Stellantis Financial Servicesとの新たなパートナーシップを締結しました。

全体では、営業収益は7.7%増の615百万ユーロとなりました。これは、最近の買収（BCC VitaおよびNeuflize Vie）の統合、国際的な保障保険業務における好調な業績、ならびに良好な財務実績によるものです。

営業費用は208百万ユーロと減少しましたが、事業成長を支えるための重点的な投資により、非常に良好なプラスのジョーズ効果がもたらされました。

保険事業の税引前利益は、460百万ユーロとなり、前年同期比+12.6%と大幅に増加しました。

IPS部門ーウェルス&アセット・マネジメント事業²¹

当四半期は、堅調な資金流入および活発な営業活動が特徴的でした。

ウェルス・マネジメント事業は、特に国際的におよびコマーシャル&個人向けバンキング事業において、当四半期に4.2十億ユーロの堅調な資金純流入を達成しました。

アセット・マネジメント事業は、非常に好調な資金流入（当四半期は12.1十億ユーロ）を達成しました。これは、マネー・マーケット・ファンドおよび中長期ファンドの双方に支えられたほか、BNPパリバ・アセット・マネジメントとBNP Paribas Cardifの一般ファンドの運用におけるパートナーシップの強化によってもたらされました。リアル・エステートは、依然として低調な状況が続いていますが、統合資産運用プラットフォームへのBNP Paribas REIM事業の統合に伴い、事業活動および組織体制の調整を進めています。

営業収益は、917百万ユーロと、前年同期と比較して0.1%のわずかな減少となりました。これは（i）ウェルス・マネジメント事業（+10.4%）における良好な金融手数料、取引手数料および預金収入、ならびに（ii）アセット・マネジメント事業²²（+6.0%）における資金流入および市場動向による効果によって営業収益は大幅に増加したものの、（iii）IPSインベストメンツにおける当四半期の評価益減少およびリアル・エステートの低迷によるベース効果の悪化により相殺されたことによるものです。

営業費用は、668百万ユーロ（前年同期比-0.6%）に減少し、これは良好なコスト管理によるものです。ジョーズ効果はプラスでした。ウェルス&アセット・マネジメント事業の税引前利益は、247百万ユーロに増加し、前年同期比3.5%増となりました。これは、ウェルス・マネジメント事業（+25.7%）およびアセット・マネジメント事業²²（+33.0%）における堅調な成長によるものです。



IPS部門—AXA IM

当四半期は、AXA IMの業績がグループ業績に初めて反映された四半期となりました。営業収益は367百万ユーロとなり、これにはパートナーシップに関連する当四半期の前払費用の償却額-19.5百万ユーロが含まれています。営業収益は主に運用報酬に支えられました。

当四半期の営業費用（262百万ユーロ）は、構造的に第4四半期を下回りました。買収に関連する事業再編費用は、当四半期にコーポレート・センターにおいて64百万ユーロが計上されました。

2025年度第3四半期累計期間（1-9月）のIPS部門の業績

2025年度第3四半期累計期間（1-9月）において、**営業収益**は4,927百万ユーロとなり、前年同期比13.0%増でした。

営業費用は、2,918百万ユーロとなり、前年同期比10.4%増でした。

営業総利益は、2,009百万ユーロとなり、前年同期比17.1%増でした。

税引前利益は、2,338百万ユーロとなり、前年同期比27.4%増でした。

コーポレート・センター

2025年度第3四半期における保険事業に関連する修正再表示

これらの修正再表示により生じた銀行業務純益は、**274**百万ユーロ（前年同期は**262**百万ユーロ）、営業費用は**288**百万ユーロ（前年同期は**272**百万ユーロ）、税引前利益は**14**百万ユーロ（前年同期は**10**百万ユーロ）となりました。

2025年度第3四半期のコーポレート・センターの業績（保険事業に関連する修正再表示を除く）

当四半期の銀行業務純益は**-135**百万ユーロ（前年同期は**24**百万ユーロ）となりました。これには**-56**百万ユーロ（前年同期は**+52**百万ユーロ）の自己信用リスクの債務評価調整（DVA）が反映されています。

営業費用は**302**百万ユーロ（前年同期は**264**百万ユーロ）となり、これには、**89**百万ユーロの事業再編費用と事業適応費用（前年同期は**64**百万ユーロ）および**65**百万ユーロのIT強化費用（前年同期は**81**百万ユーロ）の影響が含まれています。

リスク費用は**9**百万ユーロ（前年同期は**6**百万ユーロ）となりました。

以上から、保険事業に関連する修正再表示を除くコーポレート・センターの税引前利益は、**-389**百万ユーロとなりました。

-
- 1 2025年3月28日に公表された四半期情報の修正再表示は、特に（i）規則（EU）575/2013を改正する、欧州議会および欧州連合理事会の2024年5月31日付規則（EU）2024/1623により、バーゼル3の最終化（バーゼル4）が欧州連合法に組み込まれたこと、（ii）標準化自己資本の配分がリスク加重資産の11%から12%に変更されたこと、ならびに（iii）損益および事業に関するデータがパーソナル・ファイナンスの非戦略対象範囲からコーポレート・センターに再分類されたことを反映している
 - 2 リスク費用には、「金融商品に係るリスクに関するその他の純損失」は含まない
 - 3 当グループの純利益
 - 4 期末の再評価後の1株当たり有形純資産額（単位：ユーロ）
 - 5 規制上の要件の算定（最大配当可能額（MDA）算定）に準拠し、当グループの2030年度までの見通しを考慮し、市場で使用されている基準を反映するため、2025年度第2四半期より、段階的導入ベース値の比率およびリスク加重資産（RWA）に移行している。段階的導入ベース値の普通株式等Tier1は、2025年9月30日現在のリスク加重資産779十億ユーロに基づき算定されており、CRR第465条、第468条および第495条に定める経過措置が適用されている
 - 6 2025年7月1日付でAXA IMを連結。2024年度第3四半期と2025年度第3四半期の事業部門の業績を比較しやすくするため、修正再表示を実施
 - 7 プライベートバンキングの3分の2を含む
 - 8 規則（EU）575/2013第429条に従って算定
 - 9 規則（CRR）575/2013第451b条に従って算定
 - 10 健全性基準（特に米国基準。日中支払システムの需要を除く）を考慮した市場性のある流動資産または中央銀行に預け入れた適格資産（流動性調整力）
 - 11 2025年度第3四半期累計期間（1-9月）のサステナブルファイナンスのランキング。GSSボンド（グリーン、ソーシャル、サステナブルおよびサステナビリティ・リンク）、GSSローン（グリーン、ソーシャルおよびサステナビリティ・リンク）。出所：Dealogic社
 - 12 平均残高は、過去のレートを使用。2024年度第4四半期において報告方法に変更があり、現在報告されているグローバル・バンキング事業の資産および負債の合計には、融資残高および預金残高のみが含まれているが、以前は、有価証券およびその他の資産／負債も含まれていた。この変更を除くと、融資残高の過去の成長率は2.8%、預金残高の成長率は2.5%となる
 - 13 出所：Dealogic社
 - 2025年度第3四半期累計期間（1-9月）のEMEA地域におけるIB、DCM、Corporate IGおよびDCM Euroのランキング（手数料ベース）
 - 2025年度第3四半期累計期間（1-9月）のEMEA地域における証券化商品およびシンジケートローンのランキング（取引高ベース）
 - 14 モバイルアプリにおける月間平均有効顧客数
 - 15 プライベートバンキングの100%を含む（フランスのPEL/CELの影響を除く）
 - 16 プライベートバンキングの3分の2を含む（フランスのPEL/CELの影響を除く）
 - 17 生命保険、ミューチュアル・ファンドおよび証券口座
 - 18 期末におけるフリート契約台数の増加
 - 19 分配金を含む
 - 20 リアルエステートの運用資産残高：23.3十億ユーロ。プライベート・アセットの設立に伴い、IPSインベストメンツの運用資産残高をアセット・マネジメント事業に統合
 - 21 アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、リアル・エステートおよびIPSインベストメンツ
 - 22 リアル・エステート、IPSインベストメンツおよびAXA IMを除く



連結損益計算書－グループ

(単位：百万ユーロ)	9M25	9M25 AXA IMを除く	9M24	対9M24	3Q25	3Q24	対3Q24
営業収益（銀行業務純益）	38,110	37,766	36,694	+3.9%	12,569	11,941	+5.3%
営業費用および減価償却費	-23,099	-22,752	-22,326	+3.5%	-7,610	-7,213	+5.5%
営業総利益	15,011	15,013	14,368	+4.5%	4,959	4,728	+4.9%
リスク費用	-2,555	-2,555	-2,121	+20.5%	-905	-729	+24.1%
金融商品に係るリスクに関するその他の純損失 ¹	-129	-129	-138	-6.5%	-14	-42	-66.7%
営業利益	12,327	12,329	12,109	+1.8%	4,040	3,957	+2.1%
持分法適用会社投資損益	641	637	609	+5.3%	221	224	-1.4%
その他の営業外項目	113	113	127	-11.0%	23	-121	n.s.
税引前利益	13,081	13,079	12,845	+1.8%	4,284	4,060	+5.5%
法人税	-3,364		-3,103	+8.4%	-1,076	-1,051	+2.4%
少数株主帰属純利益	-464		-376	+23.4%	-164	-141	+16.3%
株主帰属純利益	9,253		9,366	-1.2%	3,044	2,868	+6.1%
コスト/インカム率	60.6%	60.2%	60.8%	-0.2 pt	60.5%	60.4%	+0.1 pt

1. 保有している金融商品の無効化または履行不能のリスクに関連する費用



2025年度第3四半期事業別業績

		コマーシャル& 個人向け バンキングサービ ス部門 (プライベ ートバンキングの 2/3)	インベストメント &プロテクション サービス部門	ホールセール バンキング 部門	事業部門合計	コーポレート ・センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)							
営業収益		6,621	1,899	4,458	12,978	-409	12,569
	前年同期比	+3.1%	+27.5%	+4.5%	+6.6%	+71.8%	+5.3%
	前四半期比	-0.1%	+24.0%	-4.8%	+1.1%	+57.9%	-0.1%
営業費用および減価償却費		-3,860	-1,138	-2,599	-7,597	-13	-7,610
	前年同期比	+2.4%	+29.2%	+1.1%	+5.2%	n.s.	+5.5%
	前四半期比	+0.6%	+30.3%	+1.1%	+4.4%	n.s.	+5.2%
営業総利益		2,761	761	1,858	5,381	-422	4,959
	前年同期比	+4.1%	+25.1%	+9.5%	+8.5%	+83.6%	+4.9%
	前四半期比	-1.1%	+15.6%	-11.9%	-3.2%	+99.8%	-7.3%
リスク費用		-718	2	-195	-910	-9	-919
	前年同期比	-2.6%	n.s.	n.s.	+19.1%	+26.6%	+19.2%
	前四半期比	-14.9%	n.s.	+74.7%	-5.4%	-59.8%	-6.6%
営業利益		2,043	764	1,664	4,471	-431	4,040
	前年同期比	+6.7%	+25.4%	-0.3%	+6.6%	+82.0%	+2.1%
	前四半期比	+4.9%	+17.3%	-16.8%	-2.8%	+85.2%	-7.4%
持分法適用会社投資損益		100	63	2	166	55	221
その他の営業外項目		33	-10	0	22	1	23
税引前利益		2,176	816	1,666	4,658	-374	4,284
	前年同期比	+8.1%	+26.2%	-0.4%	+7.5%	+37.3%	+5.5%
	前四半期比	+9.1%	+6.9%	-16.9%	-2.2%	+82.1%	-6.0%

		コマーシャル& 個人向け バンキングサービ ス部門 (プライベ ートバンキングの 2/3)	インベストメント &プロテクション サービス部門	ホールセール バンキング 部門	事業部門合計	コーポレート ・センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)							
営業収益		6,621	1,899	4,458	12,978	-409	12,569
	前年同期	6,423	1,489	4,267	12,179	-238	11,941
	前四半期	6,627	1,531	4,682	12,840	-259	12,581
営業費用および減価償却費		-3,860	-1,138	-2,599	-7,597	-13	-7,610
	前年同期	-3,770	-881	-2,571	-7,221	8	-7,213
	前四半期	-3,835	-873	-2,571	-7,280	48	-7,232
営業総利益		2,761	761	1,858	5,381	-422	4,959
	前年同期	2,653	609	1,697	4,958	-230	4,728
	前四半期	2,792	658	2,110	5,560	-211	5,349
リスク費用		-718	2	-195	-910	-9	-919
	前年同期	-737	0	-27	-764	-7	-771
	前四半期	-844	-7	-111	-963	-21	-984
営業利益		2,043	764	1,664	4,471	-431	4,040
	前年同期	1,915	609	1,669	4,194	-237	3,957
	前四半期	1,947	651	1,999	4,598	-232	4,365
持分法適用会社投資損益		100	63	2	166	55	221
	前年同期	164	42	6	212	12	224
	前四半期	113	117	5	234	22	256
その他の営業外項目		33	-10	0	22	1	23
	前年同期	-66	-4	-3	-73	-48	-121
	前四半期	-65	-4	0	-69	5	-64
税引前利益		2,176	816	1,666	4,658	-374	4,284
	前年同期	2,014	647	1,672	4,333	-273	4,060
	前四半期	1,996	764	2,004	4,763	-206	4,557
法人税							-1,076
少数株主帰属純利益							-164
非継続事業の純利益							0
株主帰属純利益							3,044



2025年度1-9月期事業別業績

	コマーシャル &個人向けバ ンキングサー ビス部門 (プライベート バンキング の2/3)	インベストメン ト&プロテクシ ョンサービス部 門	ホールセール バンキング 部門	事業部門合計	コーポレート ・センター	グループ 合計
(単位：百万ユーロ)						
営業収益	19,780	4,927	14,423	39,129	-1,019	38,110
前年同环比	+1.6%	+13.0%	+7.1%	+4.9%	+69.6%	+3.9%
営業費用および減価償却費	-12,084	-2,918	-8,133	-23,134	35	-23,099
前年同环比	+1.4%	+10.4%	+4.3%	+3.5%	+11.9%	+3.5%
営業総利益	7,696	2,009	6,290	15,995	-984	15,011
前年同环比	+1.8%	+17.1%	+11.1%	+7.1%	+72.8%	+4.5%
リスク費用	-2,274	-3	-371	-2,648	-36	-2,684
前年同环比	-2.3%	+45.5%	n.s.	+22.8%	-64.6%	+18.8%
営業利益	5,422	2,006	5,919	13,347	-1,020	12,327
前年同环比	+3.6%	+17.1%	+1.4%	+4.4%	+51.9%	+1.8%
持分法適用会社投資損益	343	184	13	540	101	641
その他の営業外項目	-110	147	3	39	74	113
税引前利益	5,655	2,338	5,934	13,927	-846	13,081
前年同环比	+5.5%	+27.4%	+1.6%	+6.8%	n.s.	+1.8%
法人税						-3,364
少数株主帰属純利益						-464
非継続事業の純利益						0
株主帰属純利益						9,253



連結貸借対照表 – 2025年9月30日現在

(単位：百万ユーロ)	2025年9月30日現在	2024年12月31日現在
資産		
預金および中央銀行預け金	196,268	182,496
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産		
トレーディング目的有価証券	326,857	267,357
貸出金および売戻契約	289,426	225,699
デリバティブ金融商品	270,806	322,631
ヘッジ目的デリバティブ	18,477	20,851
資本を通じて公正価値で測定する金融資産		
負債性金融商品	80,622	71,430
資本性金融商品	1,437	1,610
償却原価で測定する金融資産		
金融機関貸出金および債権	47,242	31,147
顧客貸出金および債権	892,642	900,141
負債性金融商品	154,415	146,975
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	(1,755)	(758)
保険事業に関連する投資およびその他の資産	301,852	286,849
当期および繰延税金資産	5,530	6,215
未収収益およびその他の資産	169,600	174,147
持分法適用会社投資	7,252	7,862
有形固定資産および投資不動産	52,401	50,314
無形固定資産	4,492	4,392
のれん	7,010	5,550
資産合計	2,824,574	2,704,908
負債		
中央銀行預金	3,424	3,366
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債		
トレーディング目的有価証券	107,410	79,958
預金および買戻契約	378,625	304,817
負債証券および劣後債	123,149	104,934
デリバティブ金融商品	254,624	301,953
ヘッジ目的デリバティブ	28,388	36,864
償却原価で測定する金融負債		
金融機関預金	118,574	66,872
顧客預金	1,027,703	1,034,857
負債性金融商品	193,400	198,119
劣後債	33,610	31,799
金利リスクヘッジポートフォリオの再測定による調整	(9,545)	(10,696)
当期および繰延税金負債	3,543	3,657
未払費用およびその他の負債	141,977	136,955
保険契約に関連する負債	258,590	247,699
保険事業に関連する金融負債	21,903	19,807
偶発債務等引当金	9,202	9,806
負債合計	2,694,577	2,570,767
連結資本		
資本金、払込剰余金、および利益剰余金	119,279	118,957
親会社株主帰属当期純利益	9,253	11,688
資本金、利益剰余金、および親会社株主帰属当期純利益合計	128,532	130,645
資本に直接認識される資産および負債の変動	(4,687)	(2,508)
親会社株主資本	123,845	128,137
少数株主資本	6,152	6,004
連結資本合計	129,997	134,141
負債および連結資本合計	2,824,574	2,704,908



代替的業績指標（ALTERNATIVE PERFORMANCE INDICATORS）

－ フランス金融市場庁（AMF）の一般規則第223-1条に基づく開示

代替的業績指標	定義	使用理由
保険事業の損益の合計（営業収益、営業費用、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）	保険事業の損益の合計（営業収益、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）（なお、コーポレート・センターに振り替えられる、一部の資産の純損益を通じた公正価値会計（IFRS第9号）により生じるボラティリティを除く。売却時に実現した損益および潜在的な長期減価償却費は、保険事業の損益に含まれる。） 当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示	営業上の本源的業績を反映した保険事業の業績の表示（技術面および財政面）
コーポレート・センターの損益の合計	2023年1月1日から、IFRS第9号が保険事業に適用されるのと同時にIFRS第17号（保険契約）が適用されることを受けて、「コーポレート・センター（保険事業に関連するボラティリティの修正再表示（IFRS第9号）および付随費用（内部の販売会社）を含む）」の損益の合計をいい、以下を含む。 - IFRS第9号公正価値会計に基づく一部の保険資産の認識により生じた業績のボラティリティの、コーポレート・センターの営業収益への修正再表示 「保険事業に帰属する」とみなされる営業費用から内部マージンを差し引いた額は、営業収益から差し引いて計上され、営業費用としては計上されない。これらの会計項目は、保険契約を販売する保険事業および当グループの事業体（保険事業を除く）（すなわち内部の販売会社）にのみ関係し、営業総利益には影響を与えない。内部販売契約に関連する項目による影響は、「コーポレート・センター」に帰属する。 当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示	個々の事業の業績の読み方を混乱させないための、「保険事業に帰属する」営業費用が内部販売契約に及ぼす影響のコーポレート・センターへの振替
事業部門の損益の合計（各事業部門の営業収益、正味利息収益、営業費用、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計）	コマーシャル&個人向けバンキングサービス部門、インベストメント&プロテクションサービス部門およびホールセールバンキング部門の損益の合計（なお、コマーシャル&個人向けバンキング事業の損益の合計には、フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルク、ドイツ、ポーランドおよびトルコのプライベートバンキングの2/3を含む） BNPパリバ・グループの損益の合計 ＝事業部門＋コーポレート・センターの損益の合計 当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示 コマーシャル&個人向けバンキングにおける正味利息収益は、正味受取利息（財務諸表の注記2.aに定義される）のみならずその他の収益（財務諸表の注記2.c、2.dおよび2.eに定義される）を含むが、手数料（財務諸表の注記2.bに定義される）を除く。	BNPパリバ・グループの本業の業績を示す指標



代替的業績指標	定義	使用理由
	コマーシャル&個人向けバンキングまたは保険契約を販売する専門的金融事業の損益の合計は、「保険事業に帰属する」とみなされる営業費用に対するIFRS第17号の適用（営業収益から差し引いて計上され、営業費用としては計上されない）による会計表示への影響を除く。この影響はコーポレート・センターに及ぶ。	
プライベートバンキングの100%を含むコマーシャル&個人向けバンキング事業の損益の合計	プライベートバンキング全体の損益を含むコマーシャル&個人向けバンキング事業の損益の合計 当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示	コマーシャル&個人向けバンキング事業の業績を示す指標であり、プライベートバンキングの業績の全部を含む（プライベートバンキングは、コマーシャル&個人向けバンキング(2/3)とウェルス・マネジメント(1/3)の共同責任のもとに置かれるが、その割合に基づきウェルス・マネジメントに損益を配分する前の数値)
PEL/CELの影響を除く損益の合計 (各事業部門の営業収益、営業総利益、営業利益および税引前利益の合計)	PEL/CELの影響を除く損益の合計 当グループの調整後の損益の合計は「四半期情報」の表で開示	PEL/CEL口座の全存続期間にわたり発生するリスクに対する引当金変動を除く、当期の損益の合計を表す指標
コスト/インカム率	営業費用を営業収益で除した比率	銀行業務における業務の効率性を表す指標
リスク費用+期首顧客向け融資残高 (単位：ベースポイント)	リスク費用（単位：百万ユーロ）を期首の顧客向け融資残高で除した比率 リスク費用には、金融商品に係るリスクに関するその他の純損失は含まない。	事業別の貸出金残高総額におけるリスクレベルの指標
営業費用の変化 (IFRIC第21号を除外後)	IFRIC第21号に基づく税金・拠出金を除いた上で、営業費用の変化を算定	IFRIC第21号に基づく税金および拠出金は、事業年度に関わるほぼ全額を第1四半期に計上するが、その影響を排除し、他の四半期との比較の際の混乱を避け、当事業年度の営業費用の推移をとらえる指標
自己資本利益率 (ROE)	ROEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの自己資本の収益力を表す指標
RONE	期中平均配分想定自己資本に対する税引前当期純利益（年換算額）の比率 - 保険以外の事業については、想定自己資本はリスク加重資産の12%を基準として配分される。 - 当グループの連結保険会社については、想定自己資本はSCR（ソルベンシー資本要件）の160%を基準として算出される健全性資本をもとに配分される。	リスク・エクスポージャーを考慮した、各事業または各事業部門に配分される自己資本の収益力を表す業績指標



代替的業績指標	定義	使用理由
有形自己資本利益率 (ROTE)	ROTEの詳細な算定方法については、決算資料に添付された「株主資本利益率」で開示	BNPパリバ・グループの有形自己資本の収益力を表す指標
不良債権カバー率	金融資産（ステージ3）の引当金と当該資産の減損後残高（ステージ3）との関係を表す指標。対象となる資産は、バランスシート上およびオフバランスシートの債権を含み、受け取った担保と相殺する。顧客向けおよび金融機関向け債権には、償却原価で測定される負債および資本を通じて公正価値で測定する有価証券を含む（保険事業を除く）。	不良債権に対する引当の状況を表す指標



比較分析－連結範囲の変更および為替レートの変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。

事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。

連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算はすべて、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

銀行業務純益：本資料全体にわたり、「銀行業務純益」および「営業収益」は同じ意味で使われている。

営業費用：従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他営業費用、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費ならびに不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている。

ジョーズ効果：2つの期間における営業収益の変動から、同一期間における営業費用の変動を差し引いたもの。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合がある。

BNPパリバの組織は、3つの事業部門、すなわちホールセールバンキング（CIB）部門、コマーシャル&個人向けバンキングサービス（CPBS）部門およびインベストメント&プロテクションサービス（IPS）部門に基づいている。これらの部門には、以下の事業が含まれている。

- **ホールセールバンキング部門**（以下を含む。）
 - グローバル・バンキング事業
 - グローバル・マーケット事業
 - 証券管理事業
 - **コマーシャル&個人向けバンキングサービス部門**（以下を含む。）
 - ユーロ圏のコマーシャル&個人向けバンキング事業：
 - フランスのコマーシャル&個人向けバンキング（CPBF）
 - BNLパンカ・コメルシアレ（BNL bc）（イタリアのコマーシャル&個人向けバンキング）
 - ベルギーのコマーシャル&個人向けバンキング（CPBB）
 - ルクセンブルクのコマーシャル&個人向けバンキング（CPBL）
 - ユーロ圏外のコマーシャル&個人向けバンキング事業は、欧州・地中海沿岸諸国を中心に、特に中欧および東欧、トルコならびにアフリカにおけるユーロ圏外のコマーシャル&個人向けバンキング事業を含む。
 - 専門的金融事業：
 - パーソナル・ファイナンス
 - アルバルとリーシング・ソリューションズ
 - ニューデジタル事業（特にNickel, Floa, Lyf）と個人投資家事業
 - **インベストメント&プロテクションサービス部門**（以下を含む。）
 - 保険事業（BNP Paribas Cardif）
 - ウェルス&アセット・マネジメント事業は、BNPパリバ・アセット・マネジメント、BNPパリバ・リアル・エステート、非上場および上場企業・商業投資のBNPパリバ・グループのポートフォリオの管理（BNPパリバ・プリンシパル・インベストメント）ならびにBNPパリバ・ウェルス・マネジメントを含む。
- BNPパリバは、BNPパリバ・グループの親会社である。



本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。

2025年3月28日、BNPパリバは、特に、規則（EU）575/2013を改正する欧州議会および欧州連合理事会の2024年5月31日付規則（EU）2024/1623によりバーゼル3の最終化（バーゼル4）が欧州連合法に組み込まれたこと、標準化自己資本の配分がリスク加重資産の11%から12%に変更されたこと、ならびに収益および事業に関するデータがパーソナル・ファイナンスの非戦略対象範囲からコーポレート・センターに再分類されたことを反映するため、2024年度の四半期の数値を修正再表示したものを公表しました。本プレスリリースに記載されている数値には、この修正再表示が反映されています。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNPパリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNPパリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルまたはBNPパリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。したがって、実際の業績は、様々な要因により、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは異なる可能性があります。これらの要因には、特に、i) BNPパリバの目標達成能力、ii) 高金利の長期化または大幅な利下げの可能性の有無にかかわらず、中央銀行の金利政策による影響、iii) 自己資本および流動性に関する規制の変更（解釈を含む。）、iv) インフレの高止まりの長期化またはインフレの再燃およびその影響、v) 特にウクライナでの戦争および中東における紛争に関連する、様々な地政学的不確実性および影響、vi) （フランスを含む）政治的不安定に関連する、様々な不確実性および影響、またはvii) 本プレゼンテーションに記載されている事項等が含まれます。

BNPパリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正または更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス（Supervisory Review and Evaluation Process : SREP）」は欧州中央銀行（ECB）により毎年実施されますが、BNPパリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれるBNPパリバ以外の第三者に関わる情報または外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独自に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表明または保証を明示あるいは示唆してはおらず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に依拠することはできません。BNPパリバまたはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースもしくはその内容の使用により生じる、または本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。

BNPパリバの2025年度第3四半期の財務情報の開示は、本プレスリリース、添付資料および四半期情報で構成されています。

四半期情報の詳細は、以下のアドレスより入手できます。<https://invest.bnpparibas/document/3q25-quarterly-series> 法令上要求される開示情報はすべて、登録書類（universal registration document）を含めて、<https://invest.bnpparibas.com> の「Results（業績）」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁（Autorité des Marchés Financiers）の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNPパリバが公表しています。



Investor Relations

Bénédicte Thibord - benedicte.thibord@bnpparibas.com

Equity

Raphaëlle Bouvier-Flory - raphaelle.bouvierflory@bnpparibas.com

Lisa Bugat - lisa.bugat@bnpparibas.com

Tania Mansour - tania.mansour@bnpparibas.com

Olivier Parenty - olivier.parenty@bnpparibas.com

Guillaume Tiberghien - guillaume.tiberghien@uk.bnpparibas.com

Debt & Rating agencies

Tania Mansour - tania.mansour@bnpparibas.com

Olivier Parenty - olivier.parenty@bnpparibas.com

Retail & ESG

Antoine Labarsouque - antoine.labarsouque@bnpparibas.com

E-mail: investor.relations@bnpparibas.com

<https://invest.bnpparibas/en/>



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world